

LW受容協力医師制度の展望

ルポ——3000人以上を在宅で看取った 五味博子医師（市原市）の臨戦活動

「寝なくていいのよ、私は」と、24時間365日、在宅医療に対応している五味医師の日常とその思いを、千葉・姉崎に訪ね、ルポする。



姉ヶ崎駅近くのビル5Fにあるクリニックで、五味博子医師

「痛みや苦しみが強いつきの往診は緊急車（ホスピスカー）ですみやかに駆けつけます。自宅療養を続けていきたいとお考えの方、できるだけ早く退院をご希望の方、サポートするため24時間、365日対応いたします」

ホームページに、そう掲げる五味博子医師（59）は、千葉県市原市のJR姉ヶ崎駅近くにクリニックを開いて25年。これまで3000人以上を在宅で看取ってきた。ここ数年は年間200人ほどだというから、2日に1人以上を看取っていることになる。

「ここは田舎なので、老人は末期を悟ると自宅に帰りたがるし、家

族も昔から『家の中央の間』に床を移して、普段通りの生活の中で自然に往生されることが多いんです。そこに私たちが呼ばれ、最期を看取るわけです」

「パジャマを着て寝てませんから」

それにしても、24時間、365日対応とは大変では？と水を向けると、患者さんには五味医師のケータイ番号を覚えておくのだから、「いつでも心配な時は呼んでください。必ずすぐに来ます。日曜、祝日も、夜中でも、いつでもかまいません。私たちはパジャマを着て寝てませんから」と



赤色灯の付いた車で駆けつける

わらず、急変した患者に家族があわてて救急車に連絡し、病院に連れていかれることもあるという。「本人の意思にかかわらず連れていかれたら、体中チューブだらけにされてしまいます。土壇場でそんなことされたら、これまでの意思の確認と努力がダイナシよ」。そんな場合は、救急車にすぐに家

伝えてるんです。寝なくていいのよ、私は。普通に寝てて、私たちがのような在宅・末期ケアの仕事なんてできやしません！」と、ハギレがいい。

クリニックの看護師と訪看など総勢24人ほどでチームを作りながら対応に当たる。常に臨戦態勢にある五味医師の往診緊急車（ホスピスカー）には、赤色灯が設置されていた。覆面パトカーのあれと

「尊厳ある死」に いたく共感

末期にある患者も千葉弁で「最期はほっとけちちよー（放っておいてほしい）」と言い、そして家族も医師側も「最期は自宅で自然に……」と確認しているにもかか

まで戻してもらおうのだという。

五味医師が尊厳死協会の受容協力医師に登録したのは4年前。「尊厳ある死」に対する考え方にいたく共感したからだという。「リビングウイルの、特に最後の『私の要望を忠実に果たしてください』の方々に深く感謝申し上げます……私の要望に従ってくださいました行為一切

の責任は私自身にある……」のころね。日本人が持っていた、周りに対する配慮と死に対する潔さでしょうか。

尊厳死協会や受容協力医師制度に対しては「圧倒的にPR不足。もっと多くの人に知ってもらわなければ」と熱い口調だった。

会報編集部・郡司 武

第1回 LW受容協力医師 活性化対策プロジェクト開く 協会による「認定制度」の導入へ

初めての「LW受容協力医師活性化対策プロジェクト」が7月28日、本部会議室で開かれた。

①登録医師数がなかなか増えない、②受容医師の受けるメリットがない、③尊厳死協会と受容医師の関係性が希薄、④会員から登録医師へのアクセスがわからない、など、現在抱える問題点に対して、

それぞれどう対策を立て、活性化していくのか。理事長、副理事長3人、理事（支部長）3人、事務局スタッフで、報告・話し合いが行われた。

冒頭、岩尾理事長が「受容医師を増やすことは協会はじめ、支部の大きな仕事の一つ。現在、東海支部が愛知県や地元医師会と連携

し、一体となった活動を展開している。この画期的な活動を全国に広げたい」と挨拶。これを受けて、東海支部長の小林理事が「数年前の支部大会で『医師の知恵を借りながら進める』ことを確認し、その後、愛知県・名古屋市の医師会と共催して開いているシンクタンクの会、さらには法制化研究会に発展してきた」と報告。

関東甲信越支部長の丹澤理事も、「問題点の解決をさぐるべくまずはアンケートを行い、活性化に向けた活動を開始している」と話した。

「朝日ムック」とのタイアップも

具体的な対策としては、「受容医師に冊子やマニュアルを作って配る」「朝日新聞出版のムックと協会会報とのパートナータイアップによって登録医師数の底上げを図る」（長尾副理事長）などの報告・提案がなされた。受容協力医師のメリットとして、協会による「認定制度」を導入することが検討された。「認定証」を作成し、送付するといったもの。この「活性化対策プロジェクト」は、具体化に向け、適時開かれる。（郡司記）